

要望項目	津軽横断道路の整備促進について（継続）		
要望先	国	国土交通省（国土政策局（広域地方政策課））、東北地方整備局（企画部（広域計画課））	
	県	県土整備部（道路課）	
	その他		
関係法令	道路法	事業主体	青森県

要 望 事 項 の 内 容
<p>本市は、青森空港、東北縦貫自動車道（弘前線、八戸線）IC、青森港及び東北新幹線新青森駅の4つの広域交通の拠点となっておりますが、産業、経済の発展と文化、観光の振興などを図るためには、各拠点の更なる機能強化が必要と考えており、また、緊急・災害時における輸送機能確保のためにも、津軽地域など主要な地域とこれら拠点施設を結ぶ交通のアクセスがますます重要となっております。</p> <p>津軽横断道路は、岩木山麓周辺地域と本市浪岡地区を結び、さらには、青森空港など交通拠点に結節する広域幹線道路として位置付けられ、平成9年には路線を構成する主要地方道五所川原岩木線の調査測量に着手し、平成15年11月には津軽りんご大橋が、平成25年7月には一般県道小友板柳停車場線小友工区が、平成27年12月には主要地方道五所川原岩木線掛落林工区及び一般県道常海橋銀線上常海橋・福館工区が供用開始されるなど、鋭意整備が進められております。</p> <p>現在、本市浪岡地区に位置する一般県道常海橋銀線福館・女鹿沢工区及び板柳町に位置する主要地方道五所川原岩木線高増工区において用地補償や工事等が進められており、全線が開通すれば岩木山麓周辺地域から青森空港までの移動時間が短縮され、地域の産業振興や地域間交流・連携の緊密化、観光地へのアクセス向上などに大きく貢献するものであります。</p> <p>つきましては、県土全体の社会経済活動の活性化と地域の発展のため、さらには、緊急・災害時における命の道としての人流・物流などの輸送機能確保等の観点からも、次の事項について特段の御配慮をいただきたい。</p> <p>1. 広域交通ネットワーク形成の根幹となる津軽横断道路の整備促進による早期完成</p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項	
昭和61年度 津軽横断道路建設促進期成同盟会の発足（会長：板柳町長）	
平成09年度 主要地方道五所川原岩木線事業着手（石野・掛落林工区）	
平成11年度 一般県道小友板柳停車場線事業着手（小友工区） 一般県道常海橋銀線事業着手（上常海橋・福館工区、福館・女鹿沢工区）	
平成12年度 主要地方道五所川原岩木線事業着手（五機形工区）	
平成15年度 一般県道小友板柳停車場線供用開始（津軽りんご大橋）	
平成17年度 主要地方道五所川原岩木線（石野・五機形工区）一部供用開始	
平成25年度 一般県道小友板柳停車場線供用開始（小友工区）	
平成27年度 主要地方道五所川原岩木線供用開始（掛落林工区） 一般県道常海橋銀線供用開始（上常海橋・福館工区）	
担当部署名	青森市 浪岡振興部都市整備課 青森市 都市整備部道路建設課

位置図

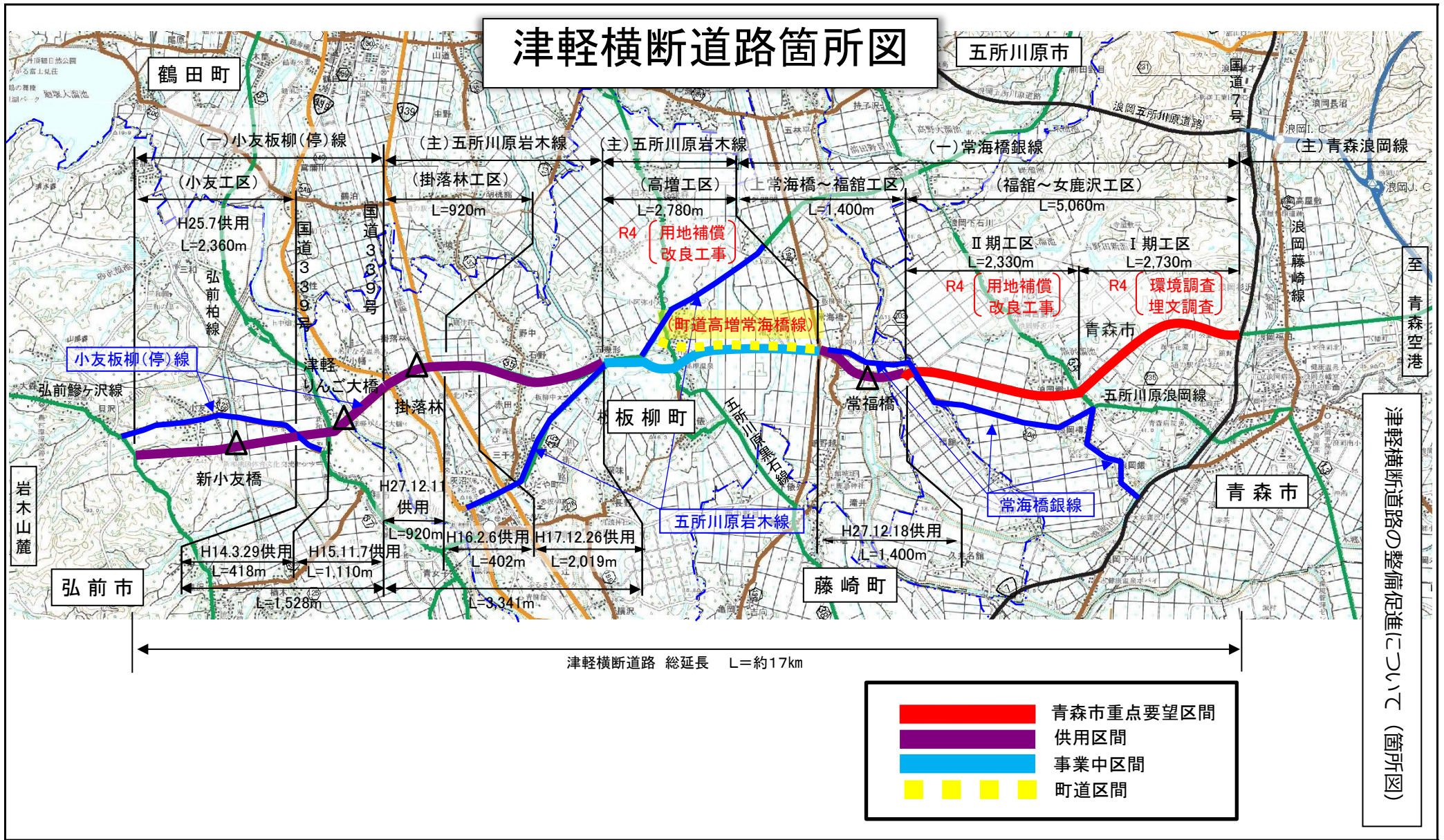


津軽横断道路位置図



津軽横断道路の整備促進について(位置図)

津軽横断道路箇所図



津軽横断道路 総延長 L=約17km

■	青森市重点要望区間
■	供用区間
■	事業中区間
■	町道区間

津軽横断道路の整備促進について (箇所図)

要望項目	広域連携の推進について（継続）		
要望先	国		
	県	総務部（市町村課）、環境生活部（環境政策課）、農林水産部（農林水産政策課）、観光国際戦略局（観光企画課）	
	その他		
関係法令		事業主体	青森市

要望事項の内容	
<p>本市では、青森市総合計画前期基本計画の柱の1つに「広域連携の推進」を掲げており、その取組の1つとして、令和2年3月に、魅力ある将来にわたって持続可能で発展する「うみ・まち・ひとを絆で結ぶ青森圏域」を将来像とする「青森圏域連携中枢都市圏ビジョン」を策定し、本市と東津軽郡4町村で「青森圏域連携中枢都市圏」を形成したところであり、本年度は「圏域の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」の3つの分野に関する52事業について取り組むこととしております。</p> <p>また、陸奥湾という共通の資源を持つ地域との連携として、陸奥湾沿岸8市町村などによる、むつ湾広域連携協議会を平成30年12月21日に設立し、陸奥湾の豊かな資源を活かした観光及び産業の振興、陸奥湾の環境保全活動に連携して取り組んでおります。具体的な取組として観光分野では、陸奥湾沿岸市町村に観光振興及び誘客推進を図るため、むつ ONE リレーウォークやむつ湾サイクルロゲイニングの実施、産業分野では、特産品や地場産品のPRを図るため、物産イベントの開催、環境分野では、環境保全に対する意識向上のため、むつ湾フォーラムや小学生を対象とした環境活動体験会の開催、「Save the むつ湾」の共通のキャッチフレーズを掲げた清掃活動等を行っております。</p> <p>このような中、連携市町村の連携中枢都市圏の取組に対して講じる特別交付税措置について、これまで、対象経費の一般財源の合計額に対して1.0であったものが令和3年度から0.8に引き下げられ、取組を拡充するに当たり苦慮しているところであります。</p> <p>つきましては、今後も東青地域をはじめとした陸奥湾沿岸市町村と連携・協力しながら圏域全体として更なる発展につなげていく取組を進める必要があると考えていることから、次の事項について特段の御配慮をいただきたい。</p> <p>1. 東青地域5市町村による青森圏域連携中枢都市圏の取組に対する助言等の支援並びに特別交付税措置率の復元へ向けた国への働きかけ及び特別交付税減額分に対する財政支援</p> <p>2. むつ湾広域連携協議会による観光・産業振興・環境保全活動に対する支援</p>	

現在までの主な経緯・参考事項	
平成30年度	・12月21日 「むつ湾広域連携協議会」が発足
令和元年度	・6月15日 むつ湾フォーラム及びむつ湾広域連携協議会総会の開催（外ヶ浜町）
令和2年度	・3月23日 青森圏域連携中枢都市圏ビジョンの策定
	・6月4日 むつ湾広域連携協議会総会の開催（書面決議）
	・9月23日、10月13日 青森圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会の開催
令和3年度	・10月16日 青森圏域連携中枢都市圏市町村長会議の開催
	・3月22日 青森圏域連携中枢都市圏ビジョンの変更
	・6月8日 むつ湾広域連携協議会総会の開催（書面決議）
	・10月7日 青森圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会の開催
	・10月20日 青森圏域連携中枢都市圏市町村長会議の開催
令和4年度	・3月22日 青森圏域連携中枢都市圏ビジョンの変更
	・6月25日 むつ湾フォーラム及びむつ湾広域連携協議会総会の開催（青森市）
担当部署名	青森市 企画部企画調整課 青森市 環境部環境政策課 青森市 経済部新ビジネス支援課 青森市 経済部観光課 青森市 経済部交流推進課 青森市 経済部地域スポーツ課 青森市 農林水産部あおりり産品支援課 青森市 農林水産部水産振興センター

要望項目	過疎地から県立高校への通学負担軽減について(新規)		
要望先	国		
	県	企画政策部(交通政策課)、教育庁(教育政策課)	
	その他		
関係法令		事業主体	青森県

要 望 事 項 の 内 容
<p>青森県立青森北高校今別校舎の募集停止前から、今別町の中学卒業生の過半数は町外の高校へ進学している状況です。令和4年には同校が閉校になり、当町の中学卒業生全員が町外の高校への進学を余儀なくされております。</p> <p>一番近い県立高校である青森北高等学校(以下、「青森北高校」)でも町からは48kmも離れており、JR津軽線を利用しての通学は片道1時間以上を要し通学定期代も年間10万円を超えます。新幹線での通学では片道30分程度に短縮されるものの定期代が月間6万円を超える状況であり、いずれの場合も保護者の経済的負担は大きく、高校進学や住宅新築のタイミングで家族まるごと近隣市へ転居する事例が相次いでおります。</p> <p>一方で、独立行政法人労働政策研究・研修機構が平成28年に発表した「U I J ターンの促進・支援と地方の活性化ー若年期の地域移動に関する調査結果ー」では、『高校卒業まで地元で暮らすと愛郷心が強くなりUターン希望が強くなる。』と指摘されており、当町でも高校卒業まで当町に住み続け、当町から通える環境づくりに取り組んでおります。</p> <p>具体的には、子育て世帯の負担軽減と人口流出の抑制を目的に、町独自に通学定期の半額助成に取り組んでおり、ほぼ全高校生が活用しております。厳しい財政状況の中で子育て世代の流出を食い止めるために町独自の施策として助成していますが、町単独予算では財政的負担も大きく施策にも限界があります。</p> <p>このまま高校再編の煽りを受け若年層の人口流出に歯止めがかかかなければ、当町のみならず過疎町村部の消滅という最悪のシナリオは、より近い将来に現実のものとなります。</p> <p>島根県では令和2年から、県が主導し高校生への通学費助成事業を実施し、各生徒の負担を月7,000円まで軽減しております。</p> <p>県立高校の統廃合により通学に時間が掛かる場所が増加している中で、本県でも島根県と同様に、県から通学弱者とも言える過疎地の高校生とその家族への助成を検討していただくよう強く要望します。</p> <p>1. 過疎地の高校生への通学助成制度について</p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項		
<p>現在までの経緯</p> <p>平成28年度から町独自の通学定期3割助成を開始。 令和2年度から町独自の通学定期が半額助成に。 令和3年度末で青森県立青森北高等学校今別校舎と青森県立中里高校が閉校。</p> <p>参考事項</p> <p>令和4年3月9日水曜日の東奥日報津軽総合「中里高校最後の1年第4部冬上」 令和4年3月10日木曜日の東奥日報津軽総合「中里高校最後の1年第4部冬下」</p>		
<table border="1"> <tr> <td>担当部署名</td> <td>今別町 総務企画課</td> </tr> </table>	担当部署名	今別町 総務企画課
担当部署名	今別町 総務企画課	

津軽総合



本社報道部 ☎017(739)1173
FAX(739)1141

弘前支社 ☎0172⑤5151
FAX⑤8035

五所川原支局 ☎0173③3543
FAX③0835

黒石支局 ☎0172②2351
FAX②8162

つがる支局 ☎0173②3130
FAX②5080

鯉ヶ沢支局 ☎0173②2058
FAX②6647

▽各支社局に情報をお寄せください

すくすく写真館



黒石市中川 北山大地さんの
長女 想来ちゃん(2つ)👧
次女 穂ちゃん(6カ月)

投稿規定 対象は未就学児で両親のいずれかが県内在住か県出身者①保護者の住所、氏名②子どもの続柄、名前(振り仮名)、年齢③投稿者の住所、氏名、電話番号を明記し東奥日報社「すくすく写真館」係へ。メールはbunka@toonippo.co.jp。

ギャラリー Gallery

◆藤城清治版画展 14日まで、弘前市のさくら野百貨店弘前店3階催事場で一写真。
展覧の第一人者として東京都を拠点



新人社員決意新た

雇用対策協「励ます会」市内から40人参加

青森雇用対策協議会(奈良秀則会長)は8日、青森市の青森商工会議所で「市内就職者を励ます会」を開いた。春から市内の企業に勤める若者が出席し、社会人生活のスタートに向け決意を新たにしていた。

励ます会は、市内の事業所などをつくる同協議会が毎年開催している。今年も新人社員や中途採用で就職する人など、10社から計40人が参加。あいさつした奈良会長は「青森市で皆さんの夢を、自己実現を果たしてほしい」と誓いの言葉を述べた。

この後会場では、基礎的なビジネスセミナーなどを学ぶ新人社員セミナーが開かれた。

(藤本耕一郎)



桑田村長(後列左)に受賞を報告した三土会長(前列中央)や矢澤さん(後列右)、小中学生のメンバー

西目屋村のメンバー、桑田村長を訪問した。同賞は、10年以上計画しているなどの要請が対象。会員数は約40人、小中学生は2026年にスポーツ大会

「通学に苦労していた」と話す。学校までは1時間。所属していた陸上部の練習はバスの運行ダイヤに合わせる形で、毎日1時間程度しか確保できなかった。大会前はもっと走り込みたいという思いもあ

中里高校 最後の1年

第4部 冬

上 遠い進学先



通学のため路線バスに乗り込む中里高生
＝2月28日午前7時、中泊町小泊地区

「中里高がなくなるなんて進路どうしよう」。中里高の閉校決定後、三和さんの元には2歳年下の後輩に当たる中学生2人から進路を思い悩むメールが届いた。三和さんは「自分は最後の中里高生として間に合ったが、町内の子どもたちは遠くの高校に行くざるを得ない。起床時間も早くなるし、本当にきついと思う」。結局、後輩たちは五所川原市内の高校に通学しているという。

近年、同町の近隣市町で高校が相次いで姿を消している。17年度には金木高市浦分校が閉校。本年度は中里、青森北高今別校舎、さらに来年度は金木、鶴田、板柳、五所川原工業、木造高深浦校舎の5校も歴史に幕を下ろす。通学の負担軽減に明確な解決策が示されないまま、23年度、津軽半島北部から高校がなくなる。

(尾坂拓哉)

「陸の孤島」大移動必須

「中里高がなくなるなんて進路どうしよう」。中里高の閉校決定後、三和さんの元には2歳年下の後輩に当たる中学生2人から進路を思い悩むメールが届いた。三和さんは「自分は最後の中里高生として間に合ったが、町内の子どもたちは遠くの高校に行くざるを得ない。起床時間も早くなるし、本当にきついと思う」。結局、後輩たちは五所川原市内の高校に通学しているという。

近年、同町の近隣市町で高校が相次いで姿を消している。17年度には金木高市浦分校が閉校。本年度は中里、青森北高今別校舎、さらに来年度は金木、鶴田、板柳、五所川原工業、木造高深浦校舎の5校も歴史に幕を下ろす。通学の負担軽減に明確な解決策が示されないまま、23年度、津軽半島北部から高校がなくなる。

(尾坂拓哉)

の住民は「学校に通うのも大移動だ。陸の孤島になっている」と嘆く。

9個

蓬田村とは、地域社会ポツ大会功績があった表彰と村教養9個人を産出は新型コロナウイルス

町村

◇今別町定例21年度一般ご15議案を原案し、散会した。◇蓬田村定例2022年度一案件として13議案を一通一審案と報告2件を承認した。22年度一般前年度当初比54万円。去田中学校通学費購入費151万2千円。第6分団中所得2万円など。21年度一般8222万円を

西

西目屋村の「白神クラブ」の表彰のほご三土オリオンピッチには同クラブ、澤一輝さん(

白神

のメンバー、昭村長を訪問した。同賞は、10年以上計画しているなどの要請が対象。会員数は約40人、小中学生は2026年にスポーツ大会

中里高校 最後の1年

第4部 冬

1日、中泊町の中里高校で行われた卒業式。白濱町校長は最後の卒業生10人を前に「閉校しようとも中里高の卒業生であることに変わりはない。古里を大切にしていってほしい」と語りかけた。津軽半島北部の住民にとって待望だった県立高校の誕生から46

若者の流出加速



卒業式会場を後にする中里高の最後の卒業生＝1日、中里高校

町教育委員会によると、町内中学校を卒業した生徒の進路は2016年度卒は五所が募集停止した20年度以降は

川原市が半数以上を占め、同町やつがる市が続いた。同校が募集停止した20年度以降は

他世代に比べて低く、川北代表は「若者と子育て世代の能力を生かせる地域づくりが必要」と警鐘を鳴らす。

進学契機 家族で転居

それに伴い、通学時間の長さを敬遠し、進学先の自治体に家族で転居する事例が毎年出ている。小泊中によると、今春卒業の3年生10人中、最大4人が家族とともに町外転出の可能性があるという。

町の高齢化率は44・7%（2月1日現在）と県内でも高水準。中里高の閉校は子育て世代の流出を加速させ、高齢化率をさらに高める恐れもある。

講演では町の人口や世帯構成に関するデータを紹介。年齢別人口の5年ごとの町内残存率が示されると、会場を埋めた町民からため息が漏れた。残存率の低さは転出率の高さの裏返しだ。10〜14歳、15〜19歳、30代女性の数値が

今春から県内の短大に進む三和美優さん（18）は「小泊出身は一知識を身に付けて、小泊を明るくできるような仕事に就ければ」。生徒会長を務めた外崎和葉さん（18）は「中里出身は「保健師になりたい」と展望を描く。

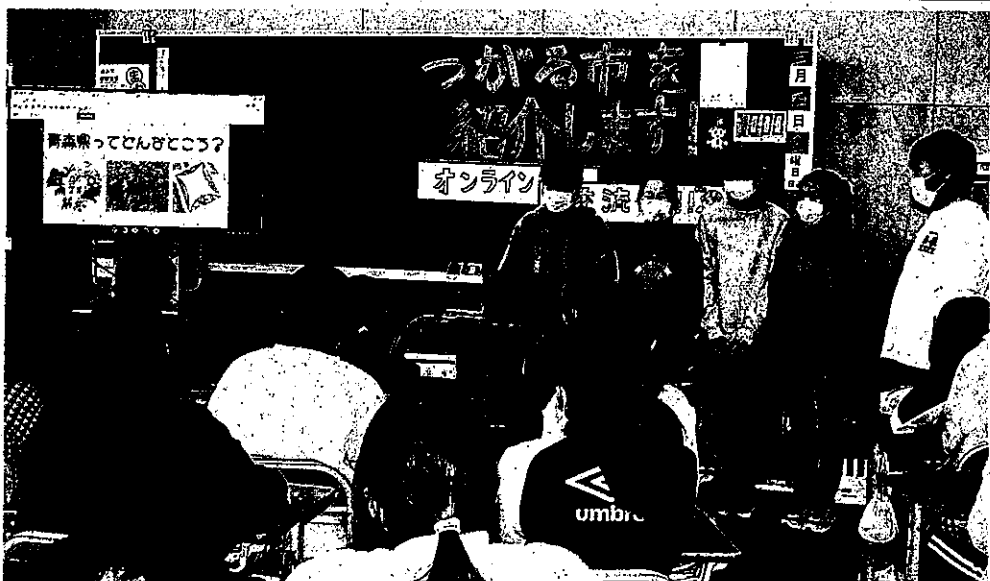
卒業式会場を後にする中里高の最後の卒業生＝1日、中里高校

町とともに歩んだ中里高。3576人の卒業生たちがこれからも歴史をつないでいく。（尾坂拓哉）

県へア 理美穴

弘前市の県へスト専門学校の校長は8日、前パークホテル書院式を行い、科4人、美容科26人が、学びや新たな一歩をた。卒業生は主

西村校長から卒業生へ弘前市



羽咋市瑞穂小児童たちとオンラインで交流するつがる市瑞穂小の6年生

「瑞穂小」共通点 名前以外にも

6年生 石川県の同名校と遠隔交流

つがる

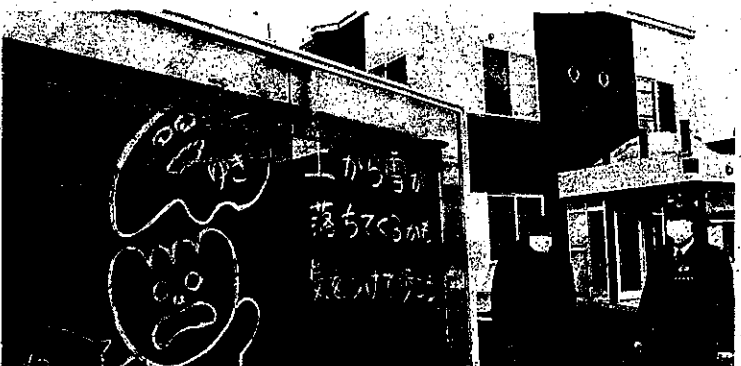
つがる市の瑞穂小学校（桑村哲二校長）は4日、同名の石川県羽咋市の瑞穂小学校の児童たちとオンラインで交流した。ビデオ会議システムでつながった両校の6年生合わせて50人が、つがる市と羽咋市の歴史や観光名所などのほか、それ

それぞれの学校活動などについて紹介し合い、互いに理解や交流を深めた。オンライン交流は羽咋市瑞穂小の関係者がインターネットでつがる市瑞穂小を見つけたのがきっかけで、昨年に続いて2回目。両校は校名のほかにも、共に統合によって2006年4月に開校したことなど多くの共通点があるという。

最後に両校の児童たちが元気づけ「アイラブ瑞穂」と掛け声を合わせ、締めくくった。つがる市瑞穂小6年の三橋鈴音さん（12）は「つがる市と羽咋市は遠く離れているが、似ている点も多々あって驚いた。いつかUFOのまわりに行ってみたい」と話した。（藤田幸雄）

手書き掲示板「かわいい」

三内丸山交番 住民から好評



青森市の青森署三内丸山交番（藤田智美所長）で、掲示板の黒板を活用した広報活動が「いつも楽しみにしている」など地域住民から好評だ。藤田所長自らチョークでメッセージを手書きして、交番で電線や点、事故防止など、藤田所長によ

津軽総合

- 本社報道部 ☎017(739)1173 FAX(739)1141
- 弘前支社 ☎0172④5151 FAX④8035
- 五所川原支局 ☎0173③3543 FAX③0835
- 黒石支局 ☎0172②2351 FAX②8162
- つがる支局 ☎0173③3130 FAX③5080
- 鯉ヶ沢支局 ☎0173②2058 FAX②6647

すくすく写真館



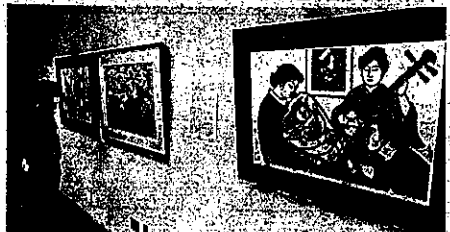
宮城県多賀城市 谷沢和恵さん（青森市出身）の

- 長男 遼真ちゃん(4つ)
- 次男 駿ちゃん(8カ月)

投稿の問い合わせは生活文化部(電話017・739・1166)へ。

ギャラリー Gallery

◆あおもり文化とアート展「昭和の子どものフォークロア」佐藤米次郎×山口晴温 13日まで、青森市のリンクモア平安閣市民ホール1階展示ギャラリー



要望項目	国道 280 号（蓬田～蟹田）バイパス整備促進について（継続）		
要望先	国	国土交通省（道路局）	
	県	県土整備部（道路課）	
	その他		
関係法令	道路法	事業主体	青森県

要 望 事 項 の 内 容
<p>一般国道 280 号は、青森市から陸奥湾沿いに北上し、津軽半島最北端の外ヶ浜町三厩地区に至る半島循環道路で地域住民の生命線となっていますが、冬期間は、降雪による交通渋滞が慢性化するなど、日常生活に支障をきたしております。</p> <p>また、東青地区の観光や、産業経済の振興並びに文化の向上にとって最も重要な路線あり、その機能強化のために整備促進は緊急の課題となっております。</p> <p>現在、蟹田Ⅱ期工区残工事区間 L=0.78 km については、用地取得、埋蔵文化調査が進められておりますが、早期完成を望む声は地元住民の切実なものであります。</p> <p>青森市と津軽半島地域の連絡機能の向上及び交流の促進を図るため、次の事項について特段の御配慮をいただきたい。</p> <p>1. 国道 280 号（蓬田～蟹田）バイパスの建設及び整備促進</p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項	
油川 ～ 内真部 L=8.37 km 平成 5 年開通	
内真部 ～ 蓬田 L=10.20 km 平成 14 年開通	
蓬田 ～ 蟹田 バイパスⅠ期工区 L=5.12 km 平成 22 年開通	
蓬田 ～ 蟹田 バイパスⅡ期工区 1 工区 L=0.90 km 平成 29 年開通	
蓬田 ～ 蟹田 バイパスⅡ期工区 2 工区 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度 道路概略設計 ・平成 27 年度 事業説明会、地形測量、道路予備設計 ・平成 28 年度 路線測量、道路詳細設計 ・平成 29 年度 事業説明会、用地測量、用地買収 ・平成 30 年度 用地買収 ・令和元年度 用地買収、遺跡調査 ・令和 3 年度 道路新設着手 	
担当部署名	外ヶ浜町 建設課

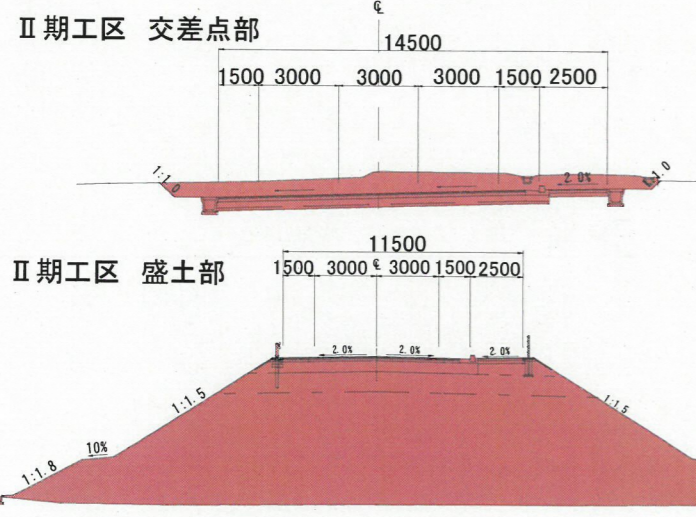
国道280号(蓬田～蟹田)バイパス整備状況



(工事起点) 蓬田村大字瀬辺地 国道280号 蓬田～蟹田バイパス L=6.80km (工事終点) 外ヶ浜町 字蟹田中師宮本



II期工区 標準横断面図



事業概要

- 事業名: 国道280号蓬田～蟹田バイパス
- 事業区間: 東津軽郡蓬田村大字瀬辺地から外ヶ浜町字中師宮本まで
- 事業延長: L=6,800m
- 幅員: [I期工区]車道部:W=9.5m
[II期工区]車道部:W=9.0m、歩道部:W=2.5m(一部両側)
- 縦断勾配: 4.0%以下
- 曲線半径: Rmin=1,500m
- 現況交通量: 5,400台/日

現道の状況



開通済み工区の利用状況



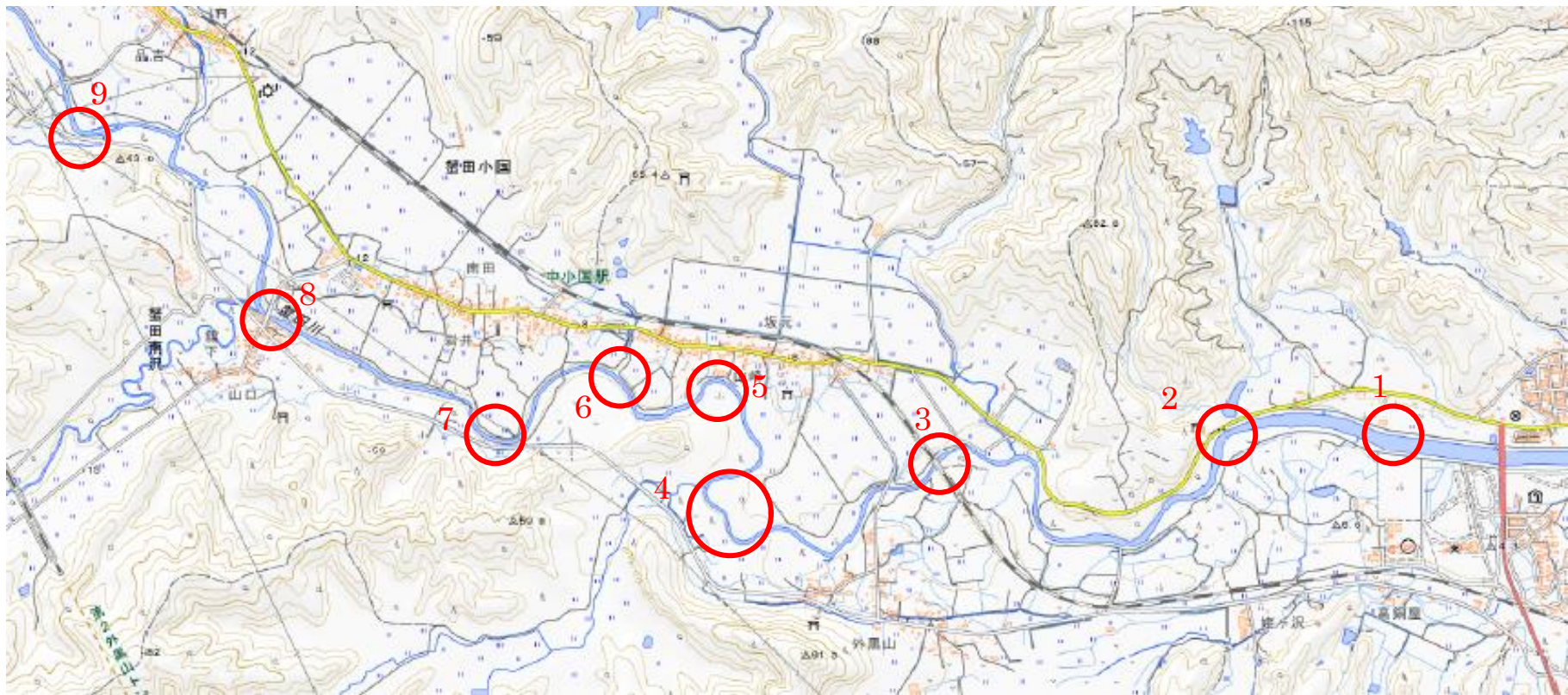
要望項目	蟹田川の河川整備について（継続）		
要望先	国		
	県	県土整備部（河川砂防課）	
	その他		
関係法令	河川法	事業主体	青森県

要 望 事 項 の 内 容
<p>蟹田川においては、過去南沢地区で大雨時に床下浸水する等、水災害のリスクの高い河川となっております。令和元年度より、総合流域防災事業として、伐木除根工、掘削工を実施して頂いておりますが、他箇所についても引き続き、断面確保等による適正な維持管理をして頂くよう要望いたします。</p> <p>1. 蟹田川の伐木除根及び河床の掘削</p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項	
平成 28 年度 要望箇所③ 掘削工	
平成 29 年度 要望箇所⑥ 掘削工	
平成 30 年度 要望箇所⑧ 掘削工・伐木除根工	
令和 元年度 要望箇所⑧ 掘削工・伐木除根工	
令和 2 年度 要望箇所⑨ 掘削工	
令和 3 年度 要望箇所① 伐採除根工	
令和 4 年度 要望箇所④ 掘削工	
担当部署名	外ヶ浜町 建設課

蟹田川の維持管理については以前より定期的に施工していただき、河川の安全は確保されてきました。

しかし数年で再び土砂の堆積が見られ、掘削が必要な状況となっております。よって、下記要望箇所の継続的な維持管理を必要とします。



蟹田川の河川整備について

要望項目	主要地方道今別蟹田線（県道 14 号）小国峠の道路整備について（新規） （今別町と外ヶ浜町の共同要望）		
要望先	国		
	県	県土整備部（道路課）	
	その他		
関係法令	道路法	事業主体	青森県

要 望 事 項 の 内 容
<p>主要地方道今別蟹田線は、今別町及び外ヶ浜町三厩地区から青森市、五所川原市へ通じる唯一の道路として町民の命を繋ぐ重要な路線になっています。</p> <p>しかし、当該路線は、急勾配の上にカーブが多く、特に冬季積雪期間は、一部区間で散水消雪施設を整備しているものの、その他の区間で路面凍結や積雪による車両事故が多発しており、地域住民は不安を感じているところです。</p> <p>北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の開業後は、物流・人流・観光・防災を支える最重要路線としての役割が更に増していることから、住民の命を守る、事故のない安全な道路として、平坦化に向けた整備について要望いたします。</p> <p>1. 主要地方道今別蟹田線（県道 14 号）の平坦化に向けた道路整備について 2. 主要地方道今別蟹田線を重要物流道路として指定すること。</p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項
<p>令和 4 年 1 月 29 日、今別町長と外ヶ浜町長の連名で青森県県土整備部長へ要望書を提出している。</p> <p>令和 4 年 5 月 31 日、道路課及び関係町村等と連携をとりながら勉強会を開催し、今後の平坦化整備に向けた課題や整備手法、現道の整備後の取扱等について意見交換（事業の検討）を継続していくことを確認した。</p>

担当部署名	外ヶ浜町 建設課
-------	----------

主要地方道今別蟹田線（県道14号）小国峠区間 位置図

